

## 2015年度 浦安市協働提案事業 「浦安景観まちづくり実践講座」(第4回) 「元町(面)の景観資源探し」が開催されました

11月15日(日)に浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業「浦安景観まちづくり実践講座」(第4回)が、「元町(面)の魅力探し」をテーマに開催されました。今回は浦安の原点である猫実地区及び堀江地区を対象に、「元町の景観の温故知新を学ぶ」を主題にしました。

参加者は一般参加者13名、市の職員6名、UKMF(スタッフ)8名の総勢27名でした。

### ■元町のまちあるき

A、Bの2班編成でまち歩きをしました。中央公民館から猫実5丁目東地区を経て境川西水門までは同じルートを歩き、西水門付近からA班は猫実地区、B班は堀江地区を歩きました。

両地区は、漁村集落が市街地化したところで、浦安市の中心の地区です。境川沿いは漁業の名残のある景観があり、独自の地域コミュニティが形成されています。猫実5丁目東地区は木造住宅の密集と老朽化が防災・住環境上の課題があり、昭和58年(1983年)から「住宅市街地総合整備事業」が進められました。



猫実5丁目東地区の様子

境川を挟んだ猫実・堀江地区は木造住宅の密集や狭い道路が防災・生活環境面の課題となり、平成20年(2007年)から「新中通り周辺整備事業」として土地区画整理事業により市街地の改善が図られました。

2つの事業地区に連担する地域にある漁村集落の名残の路地を歩くと、建物の更新や空地化の進行など市街地が変化の様子を実感できました。A班は庚申塔並びに庚申通り(商店街)を経て、猫実地区を横断し、B班はフラワー通り(商店街)の昔日の面影を想像しながら、堀江地区を横断しました。中町・新町の新市街地の創出と発展により、伝統的な生活が感じられる景観が変貌する様子を視察しました。



B班のガイド：井口学芸員

### ■まちあるきの結果のまとめ

午後の講座は、市役所第2庁舎にて行政の関係者を交えて行われました。まち歩きで撮影した写真をもとに、よい景観や改善したい景観(気になる景観)を共有し、元町の景観について全体でディスカッションしました。

### ■A班(猫実コース)発表コメント

- **よい景観**：境川西水門周辺にはきれいな景観がある。鉄橋(東京メトロ東西線)のある風景は残したい。西境橋・境川歩道橋なども絵になる風景であり、新中橋は新しい魅力になる。5丁目の佃煮屋通り(仮称)は店舗等により街並みが活きている。人が生き生きとしている何気ない風景が良い景観をつくっていく。
- **改善したい景観**：宮前通りや車のためのバイパス化している生活道路など、歩行者に安心感のない道路の改善は、よい景観への第1歩である。境川テラスは親水性を高め、水質の改善や樹木を増やすこと。川沿いに店舗などのアメニティ機能を高めることで、水辺の観光資源を活性化させ、景観まちづくりを充実させる。
- 河川空間が改修され、漁村の風景が消失



A班発表の様子

するにつれ、川沿いの街区は川に背を向けるようになった。川との関係を見直したい。市民が憩える河川空間は、元町だけでなく浦安全体を輝かせる場になる。豊受神社の銀杏など一番美しいところで時間を過ごすことが観光であり良い景観によるまちづくりの基盤になる。

- 新中通りの事業地区は住宅展示場のように元町らしくない。古い景観（良いコミュニティの伝統も）を残すことも必要。フラワー通り・東学寺前での銭湯の保存の失敗から学ぶべきことがあるのでは。

### ■B班（堀江コース）発表コメント

- 古い風景は良い評価が多く、新しい風景の評価に差はなかったが多くの課題が指摘された。
- 境川：コメントが一番多かった境川は、護岸が整備されても市民の利用は不十分。川沿いの民地との関係が弱い。建物も生活も川に背を向けている。古い街並みの路地も漁村の面影を失いつつある。路地の表層材にくだいた貝殻を使えば伝統を引き継ぐ工夫になるのでは。
- 提案：市が買い上げた土地を空き地のままでなく、暫定利用する工夫が必要。レンタルボックスや自動販売機など景観を阻害するものへの規制が必要ではないか。寺社建築物や大型民家を保全と同時に活用が重要。人が回遊できるルートやプログラムが普及するとよい。
- 良い景観：寺社、宇田川邸、銭湯、店舗、古木等歴史を感じるもの。リンドの水準点も貴重な財産であり、境川西水門を取



B班話し合いの様子



会場の様子（休憩時）

り込んだ境川筋の景観はよい景観である。よい景観には地域の参画が効果的で、フラワー通りの側溝の絵は学校参加型協働のシンボルといえる。

- 気になる景観：元町のアパートは若い独身者が多く、自然環境（緑）への関心が弱い。生活の廃棄物に埋もれてしまうのではないかと心配される。街中に人が少なく、賑わいのあるまちにすることが必要。
- 景観とまちづくり：よい景観づくりには、維持管理に住民、地権者の参画が必要で、実効的な方策づくりには行政・住民の協働による戦略づくりが必要。よいまちづくりには地域住民とともに来住する人たちの参画も必要である。

### ■総合的考察（全体ディスカッション）

- 今後の元町：埋立てにより元町からの流出が進み、余白を新住民が埋めるようになった。歴史や伝統を感じられる景観が変化した。猫実・堀江地区などの元町の代表的な地域でも人通りは少なく、境川も水上を賑わせるものがないのが心配。
- 歴史的・伝統的な拠点（寺社）を活かした祭りや祝いの復活：初詣、七五三、秋祭り、縁日等々市民全体が参画する機会を積極的に活用してはどうか。
- 漁業の機能的空間的再生：境川筋の改善に連担する空地の活用を市民運動として取り組んで行くことが必要。元町における境川は地域の産業と生活の中心であり、点在する空地と連携して元町の活性化が考えられないか。市全体で見れば境川は、主要幹線道路の陸の中心軸に対して水



(水路)の中心軸となっている。アメニティを中心とする都市軸として開発整備することが適している。

- 先取的な住民気質：元町の人たちには持続的に物事に取り組んで行くタイプと、決めたらさっさと取組みを進めて行くタイプがある。猫実5丁目の事業のように着手以来30年以上にわたって持続的に進める気質と、新中通り区画整理事業のように6年で完成させるような気質がある。

#### ■ゲストのコメント

##### ●市川都市計画課長

元町には喫緊の課題として防災対策がある。浦安らしさが未整理のままに区画整理をすれば元町らしさが無くなってしまう。「・・・らしさ」については、住民が意識していないこともある反面、中町、新町の人々が認識していることもある。本講座のようなことをもとに、地権者と議論できればと考えている。



市川都市計画課長

##### ●土久企画政策課係長

昔は、元町はノスタルジーの対象という印象があった。今日は自分事の延長として語られていたのではないか。境川の話は、今すぐできなくてもいい、20年、30年かけてしていけばよいのでは。



土久企画政策課係長

##### ●醍醐元都市整備部長

元町は漁師町の風情を残す貴重な景観資源である。元町の再整備は当初の総合計画時から取り組んできた。(元町に残る)旧市街地は、いろいろな手法で取り組んで行かなければならない。元町の良さを残しながら整備することは一番の課題だが、良さと悪さは表裏一体、元町らしさを残すのは難しい。後輩の皆さんにも取り組んでいって欲しい。



醍醐元都市整備部長

#### ■イベント案内\*\*\*\*\*

●【協働事業】「浦安景観まちづくり連続講座」  
2015年度 第5回「中町(面)景観資源探し  
開発経緯の違う住宅地を見て学ぶ」

日時：1/17(日)9時50分～16時30分・  
若潮公園前(午後・うらやす市民大学(美浜小学校内)／  
参加費：無料／申込・問合せ：  
asakawa@comdesign.jp(フォーラム・浅川)